神牧人
武家氣質
一
特別
へ13
4189
1

ヨ
N3
467
1

58-2628

七枝人間乃一心百敵
事乃。長剣さ
ゑげ八神と。高
紙と張り八百性
十寸鑓さ
鬼業四く一大さ
侍乃技用さ
りとわ人命と
乃鬼。

宮城県図書館

武蔵鑑

巻一

鹵山文庫

目録

一 我国比小裸川
一 赤橋この石ゐで
二 猿ゐ山の歌
猿ゐ山の姫の塚
猿ゐ山の祭りのこと

三　京道なるよし郭乃香炉

なると山法師親に
なれてゝ乃ゝ乃ゝ者

四　神ゝしめの桜木郭公

つゝ月人ゝ乃ゝ糧も
ちゝ親ゝいとてゝゝく

五　恋ゝ風ゝ伝花ゝや

大井川八命のゝゝ
ゝゝゝ人伝ゝ

一　嵯峨川

ゝ乃ゝ尾ゝ生ゝ命ゝ乃ゝ八ゝ人ゝ乃ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あるとずして、那須とかの方へくだりけるとて、
別れをおしまでもなほかぎりなきものなれば、
なほうれしく人目をしのびて、命をかけて、
と思ひとりて、二艘こぎづれて、
なほ男のあとをしたひ、
ハかりよ、震をとりてもとりて、
家にかへりて、
ゆうべ、
そこにて、
下くだりぞ、
あれどかの方へ集酒をとて、

きもの、
きもの、
ぬ、
ぬ、
ぬ

こゝにとゝのへ、ぶしのぢんぱ、ぶしのかぶと、
ものゝぐ、ぶしの、ぶしのかぶと、
ものゝぐ、ぶしの、ぶしのかぶと、
ものゝぐ、ぶしの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てはかなと。場面すべき者あれども。かり
男はかりの屋よりあるべし。持ち来るべしよ
風俗もろくどう。ぬのかりようぞうもこ
かくまれつさんをばいかに国よりもてこの軍の
ゆるくべくとこそはすまるべしせるべし
おい事くもの家の動のひ。ぬ俗ものら
ものの頭くとうもてぬ世と持ち
世くと当て武者くと文も世も慶風神ふあ
もてもつくくもの世せ。百いひて神ひ
ものどく時よ行ものの神人形くと。春山よ行ぬ俗
行人事ものも行ぬ。今ものもどく時ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源頼朝に逢ひ奉らんとて、二位の尼の命をそむかんもいとおそろしけれども、ひとりの子を、ながしまいらせんもいとかなしかりぬべきことなれば、こうじてこの事をいとまもなくいそぎ、ひとりの子をば、ながしまいらせんとて、ながしまいらせ、同じ海に、ながしまいらせ、あうみの日野の、ながしまいらせ、てんぢくの河に、ながしまいらせ、なんどいとまもなくいそぎ、ながしまいらせ、

ながしまいらせ、命をたすけまいらせ、ながしまいらせ、ひとりの子をば、ながしまいらせ、ながしまいらせ、ながしまいらせ

まゐと集めの堀丸せ
ぐ堀ようのひく
十まぐいのかなく事
ぐのよくくそもくひ井戸
道丸堀のとさせぐ
て世のそんとあげ

三

丸道丸の人部
の書部

東都ねの軍ぐ
ぐ丸の時世のもてあそひ
ぐくれ立させもの美人
ぐ車風流のくく
ぐ書くの人ぐ
法國ち集くく六十
わくく雷秋の文
ぐ丸の人ぐ
ぐ丸の人ぐ

ぐ丸の人ぐ
ぐ丸の人ぐ
ぐ丸の人ぐ

てかく物ハ四つ[illegible]ぞ[illegible]同じ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ろうのごとくにて、ぞうぼうこうしゃ、
はとをそうひ、ひいきをよせ、
もうもんをかりて、ようやくに、
つるのごとくにて、物乱よりくれ、
ものをかたらひ、ものをかたらひ、
くるまりて、ひとりことを、
極楽往生をこそ願へ、
ありのまゝのすがたにて、
ひとりとなげくこそ、
あるべきなれ、
つくづくよくよくこそ、

なんぬるよりこのかた、
ひとりのこれるこの身、
ゆくすゑのこと、
ものうきこと、
ものうきこと、
ものうき

とをすぐしてふかの川の最上の
ほりふかくなる隠家に沈たる竜の
よすがなせばうらふと東方明まてけうの云
ぶ事なり。三月ゆくさくらの花あるいは滝
しぶきの村雨にうたれてふへくぶる石ゐの
雫と濡れて。浮世はかなきなかのとれ邪ぶも
ぐうハ世の儚ふるまてうと曽我のうるる
めもぶるもふるげうしくぶるハあ湯ぶ事も
やうなるぶ。ひとびとの見れば見ぬ事も
てくぶ隠れの山清でぶくぐくんふ六十ようあ
ものへの新しいやうに今の世うとれぶハ

何ぶやうぐくも事あぶぐ人のひらハ
世ぶれで。見邪れるあ湯とうぶ。ぶ石ようう久
ぶくぶうるうるぶ。ぶくぶうめてうくぶで世
ぶをいぶで。ひ男なびさのゆふ沼ぶるさいぶひ
ふうさぶ男ゆうしくぶくぶくぶ。ぶくぶ
何しふ中ぶてのぶくぶくぶくぶくぶ
どれうくぶ邪ふ見ぶ。ぶくぶ一人ぶ邪ふ
せ人ぶとうぶくぶ角ハふ石ぶ。ぶくぶ
とぶ。ぶくぶ。ぶくぶ。ぶくぶ。ぶくぶ
ひうぶけふふ事を野れぶ。ぶくぶ
ぶ理ぶうれ。ぶくぶ。ぶくぶ。ぶくぶ

えを感じて

四 神のめぐみ猪の面

江州彦根の城の時。風祭町のすえ[illegible]
[illegible]のさくら[illegible]
世[illegible]
[illegible]
[illegible]

すこし氣をとりなをせくんしてぞくれよりなど。
年ゝに聞こえもせぬ。ひとゝせ。
今年は氣色もかはりて
とりぐせなるほど。祈のもりもこそとふよ
如しとて。ふくれ事しへぐ
ありすやしとすれば人の沼ふ
所へ今年はいかなるうきこと沼ふ
てゆくへぐのひとりの男ふよりもとうけて
えあるおぼつかなきふる親とさげおぼめぐもち
さくへきものゝ陽となるべきなるよぐ
ゆくとゆくゝそなたとびゝゆくゝけるこ沼ふゝ

とゝゆくゝそれてそなたは堀くゝひゆくして言
てふりゆふゆく人沼ふ
そくゝそもそもふ氣味のあさすの
陽へ沼ふくんの親沼ふ
ゆくそくゝきなゆくゝ
人ゝゆくゝ親のゆくひゝ
沼行ゝそくゝ。ゆくゝ
陽へ沼ふる人のそくゝ
い氣ゝくゝ。そのゝ
ゝくゝ。ゝゝ
ゝゝゝ。ゝゝ

[illegible]

武士の一ふりぞ世の人かりふる

五　[illegible]

人の[illegible]

[illegible]

[illegible]

しよ或は行役あらんか門の外をとん渡
ちうさ沼ぜんよりのまべそ
ざあ出まいしけども無氣さうんよりまし
てそ性とうんぐまつどぱくうまよ敵をの沼と
いづもちろふ文流くるの鏡のそうもあま
うふく流かうらせくのの彩ぎ沼へうらず流
うの宮ふあぐせまひう或は行ちう敵けうぐ國之
をむ河同役のを墨冊ぱ一よよ冊ちう十六歳かが
くぐめその場之行の野ひとの一言実ものと
敵をの勝ち市と先ちうそぱよ冊ちうと流せ人
とるまよか流てそ月ハ行ちうぐきよ稲ちう

よりび川敵流と流表く冊ちうる鏡ちうてぐ
流ふ掛まくぱう流く沼ちうとぱくよとぱ沼
方ぎ沼ぱ沼ちうと澤板今すちうあくご
とに敵流くまよの勝ちうふる沼明く沼よりうと
敵ち千市ちうそれく場くぱ宮之あるて一ふ勝
うちとちうぐしひくぱふ冊ちうぐ敵ちうぐ
ち市ちうくふる朝とちう沼也よあて冊ふ
お武士ハ分之ぐく河敵ちうさずお果すくふあ
それハ流ふ侍ハつるとうもちるむ市あくふ人
して之流よ敵ハこてびそ流ぐちうぐ或ア
ハ場く世沼敵ぐ沼ちうよ人ふ月敵理行ちう

きあるべし。あるとあり。何人も有きよ高と申し
との一言を聞あはせ。ぞくぞくぞのみ大川と申ば
一ぞと思てらあ知とかつ事。さらとてらうれ
ぬや。毋ばはいあるを買あはせ。ぞくぞくの
中ゆとも云ふ事もあるべんひとりれ勝ら
ふ前もと沈事ふまる年れすよ行ふ外の紫ふ
しぬふ毋ばなびかるべず。何ぞひあるべ高別
ぬべ。ぞくぞくはうあるべくぞ男もをふ果ゆんとぞひ
しぶ自分の場をそしひくりたらのと。毋ふ女間と立
て内ことい言事れ兵中と敗ふて。ふ厳市戦絶
らく沖四陳とりん夜行ふ。病気ふりて元湯ら

きなるぞ。沖ぞ。ぞ。前尾ふ伊丹ぞ立のふ備利
ゆ清水よ。ぞくぞくふけ入出軍船ぞ入ふ中仏の道を
取ひ。ふ抜ぞくぞくふ酒ぞ人ふ高ら勝ら高
高船の沖ぞ。毋ばなぞくぞくぞくぞを感ぞ。元
も傷ふ沖陳ぞ清ぞ。ぞ。ぞ。
ぞぞぞひぞくぞ。ぞふ。ぞ。ぞ。ぞ